

02 年表、写真

石川県で開催された「世界農業遺産国際会議」にて、蒲島郁夫知事、宮本けんしん氏、大津愛梨氏（行政、消費者、農業者）によるプレゼンを行った。



2013年度

5月29日 世界農業遺産認定



希少な阿蘇の地域資源の募集・登録

12月に、初めて保全・継承が危ぶまれる阿蘇の地域資源(食、営農、文化、景観、自然等)を募集し、登録を行った。後の「伝えたい阿蘇の農業遺産資源」の前身となる。



大分県との交流会

九州内で世界農業遺産認定を受けた大分県の国東半島・宇佐地域と1月に情報交換、交流を行った。

地域の農村女性リーダーを中心に、両地域の食材及びその活用について話し合うことで、お互いの地域についての知見を深めた。

先進地(新潟県佐渡市)研修実施

2月に、阿蘇管内の各市町村農政主管課長の方々と、世界農業遺産として既に認定されていた新潟県佐渡市で視察研修を実施した。

阿蘇地域世界農業遺産推進協会のホームページ開設

阿蘇地域世界農業遺産を紹介するために、多言語対応のホームページを開設した。

11月

12月

2014

1月

2月

3月

世界農業遺産
シンポジウムin阿蘇の開催

11月に、シンポジウムを開催し今後の世界農業遺産の活用について意見交換を行った。併せて熊本県農林水産政策課内に事務局を設置していた「阿蘇地域世界農業遺産推進協議会」が解散。同日に、「阿蘇地域世界農業遺産推進協会」を設立し、阿蘇地域振興局農業普及・振興課内に事務局を設置した。



世界農業遺産活用セミナーの開催

3月に、阿蘇地域振興デザインセンター並びに東海大学と連携し、「阿蘇の草原の維持と持続的農業」の高付加価値化へ向けた市場開拓フォーラムを開催した。

世界農業遺産モニターツアーの実施

3月に、着地型旅行商品等の開発を行う旅行代理店等を対象にモニターツアーを実施し、阿蘇の農林産物等の地域資源を活かした観光ルートについて提案した。

阿蘇GIAHS・九州大学JDS国際セミナー開催

5月に、阿蘇地域の取組促進と世界農業遺産認定地域間の国際交流を目的とした国際セミナーを開催した。国内外の有識者が一同に会し、世界農業遺産の取組みとその成果について情報交換を行った。



阿蘇世界農業遺産基金の創設

6月に、阿蘇の草原を核とした持続的な農業保全のため、企業や個人から寄付金を募る「阿蘇世界農業遺産基金」を創設した。肥後銀行から「阿蘇グリーン定期預金」の運用収益の一部を、熊本県酪農業協同組合連合会から「大阿蘇草原低温処理牛乳」の収益の一部を寄付いただいた。



阿蘇の世界農業遺産を応援する夕べの開催

7月に、阿蘇地域世界農業遺産の取組みへ貢献した個人や支援いただいた企業を表彰した。県内の経済界や農業団体などに対し、更なる支援を呼びかけるとともに、県全体へ世界農業遺産を普及・啓発するために「阿蘇の世界農業遺産を応援する夕べ」を開催した。

2014年度

5月

認定1周年記念シンポジウムの開催

5月に、認定1周年を記念したシンポジウムを開催し、阿蘇地域内で世界農業遺産の認定を活用した取組みを行う3団体に活用事例を発表していただいた。併せて、阿蘇管内の各市町村に、熊本日産自動車から電気自動車「日産リーフ」をご提供いただいたことを記念したセレモニーを開催した。



6月

伝えたい阿蘇の農業遺産資源の登録

7月～12月にかけて、保全・継承が危ぶまれる阿蘇の地域資源(食・営農、文化、景観・自然など)を募集し、調査のうえ登録を行った。



7月

丸の内朝大学との連携講座

7月～9月にかけて、東京丸の内朝大学と連携し「温泉と牛クラスー熊本編ー いざ！世界農業遺産の地、阿蘇へ」を開催した。熊本の温泉や食、世界農業遺産などをテーマに、阿蘇を中心とした熊本の魅力を事前に学んでいただき、フィールドワークによって熊本を体験していただいた。

ブランディングフォーラムの開催

9月～10月にかけて、国連大学や熊本県庁にて、阿蘇の農業システムや草原の必要性を広く紹介するとともに、阿蘇の農産物を首都圏住民にPRし、首都圏住民のニーズや期待を探り、阿蘇地域の関連事業者へ還元することを目的としたフォーラムを開催した。

ロゴマークの募集・決定・活用

12月に、阿蘇地域世界農業遺産の認知度向上と阿蘇の農業や地域の活性化を図るため、ロゴマークの募集を行った。また、阿蘇のPRや農畜産物の販路拡大に取り組む方々が、このロゴマークを活用できるようにするため、利用規程を定めた。



8月

9月

10月

12月

2015

ベジフルツアーの開催

8月に、日本野菜ソムリエ協会との共催で、全国の野菜ソムリエを世界農業遺産に認定された阿蘇に招き、農業者等と交流を行うツアーを開催した。開催後は、参加者から阿蘇の農産物の情報発信等をしていただいた。



世界農業遺産広域連携推進会議の開催

10月に、当時の国内認定地域（新潟県佐渡市、石川県能登地域、静岡県掛川周辺地域、熊本県阿蘇地域、大分県国東半島宇佐地域）が連携し、世界農業遺産の認定効果のさらなる向上を図るため、「世界農業遺産広域連携推進会議」が設置された。設置後初となる会議を阿蘇市で開催し、翌日には阿蘇地域の現地視察を行った。



SNSの開設

4月に、SNSアカウントを開設。管内の農産物や催し物、観光情報などを含めた情報発信を開始した。

「伝えたい阿蘇の農業遺産資源」の募集・登録

7月～2月にかけて、保全・継承が危ぶまれる阿蘇の地域資源を募集し、登録を行った。2013年度から累計して、合計99資源を登録している。

阿蘇ロックフェスティバル出展

5月に、阿蘇ロックフェスティバルに出展し、親子で遊べる積み木コーナーや塗り絵コーナーを設置したほか、世界農業遺産〇×クイズ等を実施した。

福岡岩田屋三越フェア出展

8月～9月にかけて、JA阿蘇や山田牧場など管内数社と出展した。

農産物や加工品の販売を行うとともに、パネル展示によるPRを実施した。



2015年度

4月

5月

7月

8月

10月

「世界農業遺産キャラバン隊」出動

4月～12月にかけて、管内各市町村の生産圃場や物産館等に出動した。

地域に根ざした農産物等の周知啓発を行い、自主的な世界農業遺産活用に向けた気運醸成を図った。



世界農業遺産フェアの開催

10月に、阿蘇市で世界農業遺産フェアを開催した。

「伝えたい阿蘇の農業風景画コンテスト」といったイベントを通して、地域住民の方に世界農業遺産を身近に感じていただくとともに、阿蘇の世界農業遺産を広く内外にPRしたことで、あか牛や阿蘇産農産物の消費拡大に繋がった。



ミラノ万博出展

イタリアのミラノで開催された「ミラノ国際博覧会」に参加した。

10月16日～21日の6日間、国内の世界農業遺産認定5地域と連携して、世界農業遺産の価値と阿蘇の魅力を世界に向けて発信した。

10月19日は「熊本の日」としてイベントを開催し、阿蘇の農産物を使った料理ショーなどを行った。



11月

2016

3月



フットパスコースと観光コースを作成

11月に、登録した「伝えたい阿蘇の農業遺産資源」やジオスポット、文化的景観など阿蘇の特徴的なポイントを網羅したデータを作成した。これらを活用して、世界農業遺産を体感できるフットパスコースと観光コースを作成し、モニターツアーを実施した。



野草堆肥調査研究発表会

3月に、草原の採草面積を増やし、野草堆肥を農業者へ安定的に供給し使用してもらう「野草堆肥利用促進システム」の構築に向けた取組みを開始した。

佐賀大学の染谷教授と連携して、野草堆肥の有用性についての調査研究を実施するとともに、その成果を農業者に伝えるため、「野草堆肥調査研究発表会」を実施した。

さらに次年度からの事業推進のため、阿蘇草原再生オペレーター組合や牧野関係者との会議等を行った。

「世界農業遺産キャラバン隊」出動

昨年度に引き続き、9月～2月に「世界農業遺産キャラバン隊」として、管内各市町村の生産圃場や物産館等にくまモンとともに出動した。

地トウキビ種まき、収穫体験

阿蘇草原再生シールの会と共催で地域住民向けの体験イベントを実施した。

7月に地トウキビの種まき、10月に収穫体験を行い、収穫後はバーベキューを開催した。



世界農業遺産フェア in大阪の開催

2月に、大阪阪急百貨店うめだ本店で、世界農業遺産フェアの開催及び特設ブースでの物産販売、パネル展示等を実施した。

くまもと復興応援感謝フェア in東京の開催

3月に、東京赤坂サカスにて、世界農業遺産ブースを設置するとともに、阿蘇中央高校生徒らによる物産販売を実施した。

2016年度

7月

9月

10月

11月

2017

2月

3月



阿蘇世界農業遺産復興マルシェの開催

10月に、南阿蘇村の野外劇場アスペクタにて、熊本地震からの復興を祈念して開催された「MUSIC for ASO 2016」とコラボし、「阿蘇世界農業遺産復興マルシェ」を開催した。

阿蘇の農業遺産ブース設置の他、阿蘇地域を中心とした飲食店や農家、JA組合員、阿蘇中央高校生徒による飲食ブースを展開し、あか牛やだご汁など、阿蘇産農産物を使った加工品の販売を行った。



来なっせ熊本 来ちよくれ大分 in福岡の開催

11月5、6日にかけて、福岡市天神で、世界農業遺産ブースを設置し、パンフレットの配布や世界農業遺産クイズを実施した。

野草堆肥調査結果発表会

野草堆肥の利用を促進するため、野草堆肥利用事例集の作成を行い、管内農家に無料で配布した。

また、野草堆肥の有用性研究調査の結果を広く周知するため、「野草堆肥調査結果発表会」を開催した。



世界農業遺産「阿蘇」フェア in福岡

3月に、福岡市青果市場、イオンモール香椎浜にて、阿蘇産農産物を使った試食会や物産販売を実施した。

阿蘇世界農業遺産フェア in福岡

10月に、福岡市中央区にて、世界農業遺産ブースを設置し、パンフレットの配布や世界農業遺産クイズを実施した。

熊本阿蘇～未来に続けよう～世界農業遺産フェア

11月に、東京都世田谷区にて世界農業遺産ブースを設置し、パンフレットの配布や世界農業遺産クイズを実施した。

阿蘇世界農業遺産復興マルシェ

11月に、「阿蘇世界農業遺産ウォーキング」と同時にマルシェを開催した。ステージイベントのほか、あか牛などの加工品ふるまい等を実施し、地域内外の方に、世界農業遺産を身近に感じていただいた。



農産物の付加価値向上

野草堆肥を利用した農産物の付加価値向上のため、県、高森町、JA阿蘇など関係団体が協力し「ひごむらさき(ナス)」をモデルに、阿蘇地域世界農業遺産を活用した販売戦略の策定を行った。また、阿蘇地域世界農業遺産のロゴマークを利用した鮮度保持フィルム等を作成した。

野草堆肥ストックヤードの確保

野草ロールの運搬効率の向上と採草面積増に伴う野草ロール保管場所の確保を目的に、ストックヤードを2か所設置した(山田東部牧場、JA阿蘇旧トマト選果場)。



2017年度

8月

10月

11月

世界農業遺産専門家会議による モニタリング調査

8月に、農林水産省が設置する「世界農業遺産専門家会議」の委員によるモニタリング調査が実施され、現地調査とヒアリング調査に対応した。専門家会議からは、8点の助言事項をいただき、新たなアクションプランの策定に繋がった。



世界農業遺産認定地域連絡協議会(J-GIAHS) 総会、シンポジウム、研修会

11月に阿蘇地域が事務局となり、国内の世界農業遺産認定地域の市町村で構成される世界農業遺産認定地域連絡協議会(当時)の総会等を開催した。

1日目の現地視察では、大観峰、山田東部牧場等を案内し、熊本地震からの復旧・復興等について説明。

2日目のシンポジウムでは、宮崎大学の西脇亜也教授に基調講演をいただいた後、「草原に秘められた可能性と地域農業の未来」をテーマにパネルディスカッションを実施した。

総会では、各地域の取り組み状況報告や、今後の会議のあり方について議論を行った。

また、2月には、東京都で研修会を開催した。



大日本農会「農業」寄稿

阿蘇地域世界農業遺産を紹介する記事を、大日本農会「農業」7月号へ寄稿した。



ひごむらさきフェア

前年度策定した「ひごむらさき(ナス)」の販売戦略の実証試験として、高森町を中心に「ひごむらさきフェア」を開催した。

野草堆肥を利用した農産物の付加価値向上のため、県、町、JAなど関係団体による協力のもと実施し、8月に試食会を行った。



世界農業遺産 共同PRイベント

11月に、JR東京駅で、石川県主催で行われた世界農業遺産共同PRイベントにブースを設置、パンフレットの配布や世界農業遺産クイズを実施した。

2018年度

7月

フットパスコース体制の強化

世界農業遺産を肌で感じてもらう「阿蘇世界農業遺産フットパスコース」について、見直しやコースの再設置、案内マップ印刷などのコース体制の強化を行った。また、阿蘇地域振興デザインセンターと連携し、10月からフットパスコースをスマホアプリ「YAMAP」で閲覧できるよう整備した。



8月

10月

11月

12月

世界農業遺産認知度 向上プロジェクト会議

12～2月にかけて、阿蘇地域振興局各課及び関係市町村の若手職員を構成員とした、世界農業遺産の認知度向上等を考えるプロジェクト会議を開催した。ワークショップを計3回実施し、具体的なアイデアを出し合い、関係者の機運醸成につなげた。



阿蘇世界農業遺産インスタフォトコンテスト

インスタグラムを活用して、「阿蘇世界農業遺産インスタフォトコンテスト」を開催し、9月から12月の応募期間に、445点の応募があった。選考を行い、優秀作品6点に対して賞品等を授与した。



2019

2月

3月

世界農業遺産ビジネスプランコンテスト

火の国未来づくりネットワークが開催する「世界農業遺産ビジネスプランコンテスト」の取組みを支援した。

青少年の部では、阿蘇中央高校グリーン環境課の「外国人観光客向けChopsticks（箸）作り体験で阿蘇をPR」、一般の部では、後藤氏（南阿蘇村）の「ASO COFFEEを日本・世界のトップブランドに」がそれぞれグランプリを受賞した。



野草堆肥の有用性研究

佐賀大学と連携し、阿蘇の野草堆肥中に含まれる拮抗菌の分離・同定、拮抗メカニズムの解明、土壌栽培による病害低減作用の試験等、野草堆肥の有用性についての調査研究を実施した。

その結果、阿蘇の野草堆肥には、幅広い病害菌に拮抗作用をもつことが示唆され、病害軽減効果が確認された。

また、得られた研究成果や野草堆肥及び野草牛ふん堆肥の最適製造法を地域内の農業者に広く周知するため、3月に「阿蘇地域世界農業遺産シンポジウム」を開催し、「野草堆肥利用促進講演会」を行った。



コープ九州組合員商品活動交流会

5月に、福岡県生活協同組合連合会が実施した交流会に講師として出席し、世界農業遺産の観点から意見交換を行った。参加者の中には、阿蘇地域が「世界農業遺産」に認定されていることを知らない方もおり、県外に向けたPRにもつながった。



SATOYAMA イニシアチブパートナーシップ (IPSI) 公開フォーラム

9月に、ホテルメルパルク熊本で、熊本県自然保護課が開催した公開フォーラムに参加した。阿蘇地域世界農業遺産の活動事例を発表するとともに、パネルディスカッションにて意見交換を行った。



2019年度

5月

9月

香港 阿蘇地域世界農業遺産フェア

9月に、香港の飲食店「割烹 檜杏」にて、「香港 阿蘇地域世界農業遺産フェア」を開催した。

フェア初日には、現地メディアやブLOGGER、旅行事業者等を招待してキックオフイベントを開催した。また、フェア期間中は「割烹 檜杏」において阿蘇地域特別メニューを提供し、映像等を活用して阿蘇地域世界農業遺産のPRを実施することで、海外における阿蘇産農産物の販売力強化及び阿蘇地域世界農業遺産の認知度向上を図った。



阿蘇あか牛肉料理認定店

阿蘇地域世界農業遺産の認知度を向上するため、阿蘇あか牛肉料理認定店制度の本格的な活用に向けて、パンフレット等の情報を更新した。

また、認定店を紹介する特設サイトを本協会ホームページ上に新しく作成した。



九州農業遺産フェアin大阪

11月に、大阪駅ダイヤモンド地下街にあるディアモール大阪にて、世界農業遺産に認定されている九州3県(大分県国東半島宇佐地域・宮崎県高千穂郷・椎葉山地域・熊本県阿蘇地域)が連携し、九州の魅力を大阪都市圏の方々に広くPRするため、情報発信事業を展開した。



阿蘇世界文化遺産登録推進九州会議

阿蘇世界文化遺産登録推進九州会議が取り組む暫定リスト入りに向けた活動に対して支援した。

11月

2020

YAMAP×阿蘇DC第1回ASOロゲイニング大会

11月に、西原村の「阿蘇世界農業遺産フットパスコース」を活用し、ロゲイニング大会を開催した。

本大会で活用したスマートフォンアプリ「YAMAP」には、本協会が設置している阿蘇世界農業遺産フットパスコース全てが登録されており、今回のイベントを実施したことで、「YAMAP」ユーザーに向けた阿蘇地域世界農業遺産の周知・啓発に繋がった。



中学生サミットin大分

2月に、大分県で世界農業遺産のシステムを次世代に継承することを目的に、認定地域内の各中学校が世界農業遺産について学習してきた内容を発表し、交流しながら世界農業遺産の次世代への継承を目指す「中学生サミット」が実施された。

本地域からは西原村立西原中学校が参加した。



白川牧野 野焼き再開

熊本地震の影響で野焼きを中断していた南阿蘇村白川牧野において、県・南阿蘇村・地元牧野組合と連携し、防火帯整備等の実証事業に取り組んだ。

3月に野焼きを再開したことで、熊本地震からの野焼き再開に向けたモデル事業となった。



2月

3月

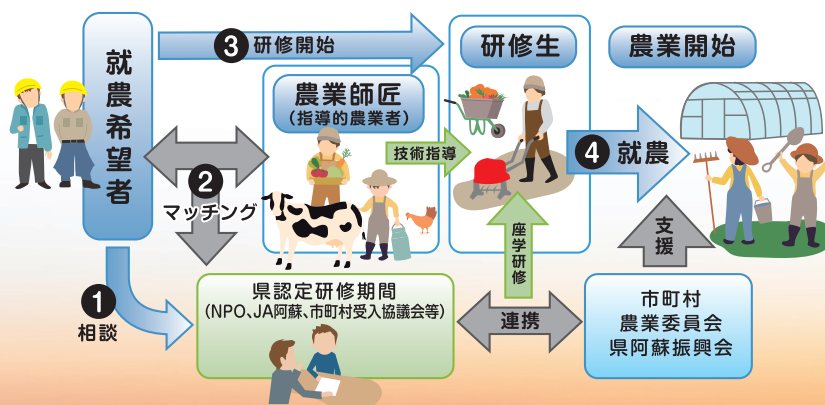


農業師匠制度

新規就農を総合的に支援する窓口をJA阿蘇に設置し、研修受け入れ可能な先進的農家を「農業師匠」として登録することにより、就農希望者を育成する仕組みを整備した。

これにより、阿蘇郡市の様々な就農相談に広域かつ迅速に対応できるとともに、就農希望者の農地探しや中古ハウス探しといった時間を要する要望に対しても、長期的な対応がとれるようになった。

2019年度は、農業師匠制度をPRするパンフレットやホームページを作成し、就農相談会への出展等を行った。



阿蘇ジオパーク学講座

7月に、阿蘇ジオパーク推進協議会が開催した「阿蘇ジオパーク学」に講師として登壇した。

阿蘇中央高校の学生を対象に、阿蘇の農業について説明し、地元学生の理解醸成に繋がった。



「阿蘇の食卓」作成

これまでに整備した「阿蘇世界農業遺産フットパスコース」や、「伝えたい阿蘇の農業遺産資源」に関する情報を盛り込んだパンフレット「阿蘇の食卓」を作成。

都市部へのPRや阿蘇への来訪者の増加など、都市部との交流拡大につながる資料として活用した。



2020年度

7月

10月

2021

1月

2月

3月

九州世界農業遺産フェア

10月に、福岡県の本ノ葉モール橋本にて、世界農業遺産に認定されている九州3県（大分県国東半島宇佐地域、宮崎県高千穂郷・椎葉山地域、熊本県阿蘇地域）が連携し、世界農業遺産をPRした。



パレアロビーでの展示

1月～2月にかけて、くまもと県民交流館パレアにて、世界農業遺産パンフレットやパネル等を展示した。

アナタの知らない「世界農業遺産の世界」

2月～3月にかけて、南小国町観光協会が開催した「世界農業遺産を脳で感じる。アナタの知らない『世界農業遺産の世界』」において、パネル設置等を行った。

阿蘇世界農業遺産の補助金を活用して開発された認定お土産コーナーの設置や、ノベルティ配布に取り組んだ。



世界農業遺産等専門家会議による モニタリング調査

専門的視点から、世界農業遺産認定地域の活動について助言を行うモニタリング調査が、8月にオンラインで開催された。

当協会事務局を中心に、関係団体の皆様にもご協力いただき、世界農業遺産認定後の取り組み状況について発表し、各委員から助言を受けた。

この中で受けた評価・助言を基に、2023～2027年度のGIAHSイニシアティブアクションプランを作成した。



フットパス紹介動画作成

コロナ禍においても、阿蘇地域内外の方が「阿蘇世界農業遺産フットパスコース」の魅力を実感できるよう、ドローンを用いて、それぞれのコースの紹介動画を作成した。完成した動画は、3月に、動画投稿サイトや当協会のホームページに掲載した。



2021年度

8月

11月

12月

2022

3月

世界農業遺産国際会議2021

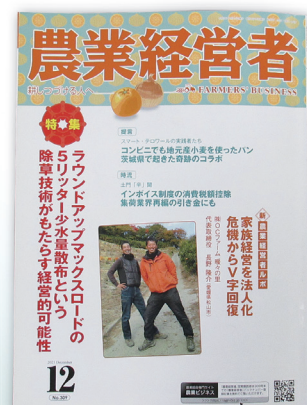
11月に、石川県と新潟県の世界農業遺産認定10周年を記念した国際会議が石川県で開催された。

阿蘇地域は2日目(26日)に、認定後の取り組み内容について発表を行った。会議の様子は同時翻訳付きで配信され、国内外に向けた阿蘇地域のPRになった。



農業経営者12月号

農業技術通信社の発行する月刊『農業経営者』に、阿蘇世界農業遺産をテーマとした記事を掲載した。



豊洲場外マルシェ 7月

7月に、東京シティ青果が実施する「豊洲場外マルシェ」に出展し、都心部での周知・PRに取り組むとともに、阿蘇産農畜産物の販売を行った。事前に300部限定で準備していた袋詰めセットは午前中に完売し、都心部の多くの方に阿蘇の農業、農産物に触れてもらうことができた。



三瓶山、蒜山の草原視察

草原を有している他地域が、どのような行政的な支援を行っているか学ぶため、10月に、市が主体的に野焼きを行っている三瓶山(島根県大田市)と、草原の二次的利用が盛んに行われている蒜山(岡山県真庭市)の視察を行った。



2022年度

7月

ロアッソ熊本との連携によるPR

熊本県のサッカークラブチーム「ロアッソ熊本」と連携し、県外で行われる試合の際に、阿蘇地域世界農業遺産のリーフレットを配布した。



2023

アーカイブ事業

県と連携し、阿蘇地域振興局内に保管されている過去の阿蘇の風景や動植物の写真をデジタル化し、永久的な保全を可能にした。写真の一部を当協会のホームページやSNSに掲載し、阿蘇地域世界農業遺産推進協会の認知度向上につなげた。



フットパスイベントin南阿蘇村

3月に、南阿蘇村の「阿蘇世界農業遺産フットパス岸野コース」を活用し、2023年7月の南阿蘇鉄道全線開通を記念したイベントを開催した。50名の定員を設けて実施し、イベント後は、南阿蘇産そば等の農産物を抽選で贈呈した。



月刊「ガバナンス」3月号

月刊「ガバナンス」に阿蘇地域世界農業遺産の紹介記事を掲載した。



3月

阿蘇中央高校による商品開発

阿蘇中央高校がASO田園空間博物館と連携し、アニマルウェルフェアを取り入れて飼育した豚肉を用いた新商品「うまかあ豚ラー」の開発支援を行った。商品は、道の駅阿蘇で期間限定商品として販売された。

